

James Curtis Hepburn · Samuel Robin Brown 訳

新約聖書馬可伝

初版発行一四〇周年

キリスト教学学校教育同盟第百回総会記念

学校法人 明治学院

この「マルコ伝」はいまだキリスト教禁制下の二八七二年（明治五）秋、J・C・ヘボンがS・R・ブラウンの協力で訳出した聖書であり、明治元訳聖書（二八八〇年）に先行する。米国人歯科医G・エリオットの献金二百ドルを基金とし、書は奥野正綱、刻製は横浜住吉町稲葉治兵衛、開版は国内では行えず上海で一千部を摺ったと伝えられる。原本は明治学院大学図書館所蔵本を用いた。

新約聖書卷之二

馬可傳福音書

第一章

神の子耶穌キリシトの福音のくどめ預言者のある
 されしごとく視哉され汝の面前よりお使をつとま
 んこと汝の前ふらちを設べし野よりくる人のことあり
 て主の道筋と用意してそのまらきちと正直よせよ
 となりてヨハ子野におりて洗禮し罪をゆるさるる
 ためは悔改するの洗禮と言ひらめしりユダヤ國中お

よびエルソルモンの人ぐまよきりおのくその
 罪と白状してヨルダ子といふ河まで洗禮とらけし
 六ヨハン子ん駱駝の毛衣と着腰よ皮の帯とむぎび蝗
 と野蜜と食を言ひろめていひけるハ我よりすむれ
 ころもの我の後よころべー我ハ屈めてその草履
 の紐とくくもたむざるかどの人なりハ是ハ水よ
 て汝らと洗禮せーがその人ハ聖靈よて汝らと洗禮
 せべーそのころ耶穌ガリラヤのナザレよりきり
 てヨルダンよおつてヨハン子の洗禮とらけりた

ちよ水よりあづきよき天のひらけて聖靈鳩のか
ちよてその身のうへよきるきよきまき声天よりあ
きて汝んまぶころよかなふるまが愛子なりと若の
してころちよ聖靈耶穌と野よゆのしむ四十日野よ
居サタナよころちよれ獣とよふとわりのまき天の使
ころちよ仕つりヨハ子囚られのち耶穌ガリラヤよ
しり神の國の福音とひひろめて刻限く満り神
の國ハちり汝らころちよて福音を信せよ
とちり耶穌ガリラヤの潮のちりとあゆむとき

シモンとその兄弟まがひのアンデレヤガみづうゝ糸網あみを
みるそれいさくくハ漁者いさなりのなればなり耶穌イエスこゝろよ
ひけりこれよあそびひこされ我われ汝なんぢらと人ひととあそぶ
ものよなまびら六だちよその網あみとあそぶこれよあそ
ぶ五り五よりまじり五みゆ五にゼベダイの子
ヤコブその兄弟まがひのヨハネ子こと舟ふねよあつて網あみをつくらよ
とてた三ちふれらとびら三その父ちちゼベダイと傭やひ
人ひととあそぶ舟ふねよあそぶとてまじり三ひけり彼らかれら
カペナオムよつり三バ耶穌イエスとちよ安息日やすみよ會あひまひ

堂どうよりそと一とさせし人ひとぐそのと一とせざら
 とありいんとなれば權威けんいとせらるる人ひとのごとく人ひとぐと
 として學者がくやのごとくはあふればなりその會堂かいどうよそ
 惡鬼あくまよとりつれらる人ひとさひんで二四ひけるハ噫あナザレの耶
 穌よか二五つらたにおつてなまよそせやこれとらるるぼさん
 とてさうらやられ汝なんぢハ誰たれなるぞあるさふらち神かみの聖せい王わう
 なるものなり耶穌よこれとつめてひけるハ黙だま止まとされ
 とらぬれ六惡鬼あくまその人ひととひきつけさせ大聲おほいこゑよさひんで
 かれとらぬらるる人ひとぐさかおぼらさたづひえ論ろんとて

ひげのハる者けりて、さやこれけりて、あつて、
とへぞや、それ悪鬼あくまよそくも權威けんいよつて命いのちじて悪鬼あくま
これよ服くわよそバかり、ニだちよ耶穌イエスのきとえカリテヤ
國中くにぢうよひろがり、元彼らかれとちよ會堂かいどうをりぞヤコブ
とヨハン子ことごもふシモンとアデレヤの家いへよいらに
三十シモンちしもんの姑執ぢうぢと病やまて断居つらりよある人ひととちりよ
このことを耶穌イエスよつぎり、三耶穌イエスよその手てとちりて
おろしきとバ執ぢうぢとちらぬあつてその女むすめかちらに
つて、三夕方ゆふがひ日の入ひのいりとちりて、その病やまるものと鬼おによちり

つれなるものと耶穌よつれなきはつり城下^{三三}舉りて門よ
あつされ耶穌^{三四}の病とやこころおろくの人ぐ
となや一まゝおろくの鬼とおひゞ一鬼のものりよ
こゝとゆゑとぞそれ鬼とまゝとあれバなり耶穌^{三五}夜明のま
しよとやぐおとそていで人なごころよゆゑそそふ初^{三六}と
耶穌^{三七}モシおとびられとまおあり一ものま彼^{三八}のあまを
まゝひてゆかりたぐねまゝて彼^{三九}よひけるハ人ぐ
まの汝^{四〇}とまぐと耶穌^{四一}なごころひけるハと一と
のづかあふ汝^{四二}らとまお近^{四三}づえのむらぐ申^{四四}て一

つまなれバコれハそのこゝろあよこされバなり三九 耶穌ガリラヤ
 國中くわちゆうと經へめぐりその會堂くわいどうよてとてどの且かつ鬼おにとおひ
 づめ四十癩病らいびやうのもの一人ひとりかれよこころひぢまづを願ねがふ
 てつひのハき御心みこころよかたをづよくかれとをとく
 だまふべー耶穌よすうあれと手てどのをづれよつひてい
 ひけるまろろあまなま清きよくなれとひやりあまら
 まら癩病らいびやうくあれてその人ひととくなまらり耶穌よすうままひく
 りあまらとまらりめてひけるつらんでなまらり
 人ひとよまなれとゆとて自身みづかひと祭司さいしよませなんぢ

さうなるにまつてモーセが命ぜらるるのそ
かたものときげてくれふ證據となせよ四五とさしどもその
人いぞまづ大いひやうそのこととひろく評^グ判^ンせ
らるるに後おちやひふ城下ヂよ入リがごとくしてさ
人なるともるよ居ルらうが人ぐ四方ホよりさしよ
らるる

第二章

耶穌日ヒとつてわらうカペナオムとらうらふよさく家
内チよありとささえらうけさバツちふおちくの人ぐ

門内カドノウチより入りて、シテ場處バトもなきやどにて、シテひよきり
 耶穌イエスこれらふと、シテのべーミ人ひとぐ癱瘋チウフとやまゝするものと
 四人にんよりつぎせ耶穌イエスふきり、シテ群集グンシツよりつて耶穌イエスよ
 ちりりかゝりけむバれの居ゐところの屋蓋ヤカとくぐり
 あけて癱瘋チウフの人ひとと卧床ノドのまゝつらちり、シテ耶穌イエスそ
 の信しんぢるとしてちりぶの人ひとよりひけるハ子こよなんぢの
 つしんつしんゆき、シテ學者ガクシヤが數人スベテもふ座ザ居ゐり、シテ心中シンチュウ
 よおひけるも、シテふる人ひとハやく惡口アクコウとりや神カミよあ
 らざれば、シテ罪ツミとゆる、シテうづもやと、耶穌イエスとちり、シテ彼ら

が心中しんちゆうのわくのごとく論ろんぢるとまづうらうらよとて
 こそ進しんらにひけるハ汝なんぞらなんぞ心中しんちゆうようるを
 論ろんぢるや癱瘋らんぷうの人ひとよ汝なんぞのつもゆをれうらうら
 ハおとそ汝なんぢの卧床ねどこととりてゆけとらうらうら
 やされども人ひとの子地ちよ居おてつとを申ますの權威けんいとら
 こそと汝なんぢらふとせんとしてと家いへを癱瘋らんぷうの人ひとよ
 こそ汝なんぢらふとそと卧床ねどこととり家いへよと進しんとひかれ
 士しその人ひとからまらおと卧床ねどこととりて人ひとぐのまよら
 けとバ家いへおとろと神かみとあがめてひけるハ我われら
 士し

曾てかみのごころのこころとみどと^{十三}きし海へよゆてに
 人ぐまふれよつていひまじばれらと教^{十四}しゆさつらるる
 アルパヨの子レウヒ税貢をせむむらとらるよ坐^{十五}せる
 とらてされよまじつとひりまじつて耶穌よと
 とらり^{十五}きて耶穌その家よおいて膳^{十六}よつくともお
 くの貢吏と罪ある人も耶穌とその門徒とらるよ膳^{十六}よ
 つてりそれらならハおやくふて耶穌よまじつて
 きのなり^{十六}學者とパリサイの人らもつてみつてりおよ
 びつてある人とらるよ食^{十七}よとらてそのでよいひるハ

耶穌のまづいふに罪ある人ともふ食飲するハ何れぞや
 耶穌ままづてまづにいひけるハ康健なるものハ醫者か
 ど病あるもののみいふは義い人ひととまねくはあま
 るも罪ある人と悔改かへせんまなかりたまはヨハソ子の
 べしとリサイの人ハ断食する例ありければまは耶穌
 まはまらひけるハヨハソ子のでしとリサイの人ハ断食
 せん汝なの門徒断食せざるハ何ゆゑぞや耶穌十九これら
 まはけるハ新娶者ともふ間あひだその友から断食と
 せんやまはるゝまはむことまはむ間断食するこゝ能

手^テ 日^ヒ 断^ツ
 食^シ 継^ツ 衣^ヌ 縫^フ
 補^ユ
 革^カ 酒^サ 酒^サ 耶^ヤ 蘇^ス 安^ア 息^ク
 日^ヒ 小^コ 烟^{エン} と 通^ト 行^ウ

めくりハリサイの人^{二四}もよひかるハきよかれハ安^{あん}
息日^{そくじち}よおしてなせづうづることをなせいんぞや耶^五蘇^そ
うまにいついかるハダビデおひそのもととてくして飢^{うま}
とせなせーこといふづ讀^{よみ}ぶるかきよらち祭司^{さいし}のとも
アビアタルのとも神殿^{かみだん}より祭司^{さいし}のつう食^くとべうづ
るそなへる蒸餅^{むすび}とたべきそのもにあるものよあるこ
しもかれらふいついかるハ安息日^{あんきじち}ハ人のいよめ設^{たて}られて
人^{ひと}安息日^{あんきじち}のいよめよちうけらうふあうぞえれば人の子^こ
ハ安息日^{あんきじち}ようも主^もなるなり

第三章

耶穌イエスもいい會堂カイドウよりい片手カタテないる人ひとあり或ニ耶穌イエスと
 訟ソウんいふ人ひとと安息日アノヒよい瘡カサをいやいらいたり耶穌手
 ないる人ひとよいひいけるい起おこていまいるい人ひとぐいひいけるい
 安息日アノヒよい善ぜんといやい悪あくといないるい生いるいこといと
 くるいやいもいやいりいづいもいといないるいやいらい默然モクゼンいりい五五 耶穌
 そのいころいの頑固クワンコあるいをい愍あはれいと怒いりいといふいんでいかいまいついと見い
 まいるいその人ひとよい汝ニのい手テといのいせいといひいけれいば彼カノその手テ
 といのいぎいらいにいまいらいるい他カノの手テのいごといくいないるいこといとい

ちよハリサイの人とヘロデのどもがくりぞくは
してり耶穌とくありきづるやとあひふれりマテ耶穌
蘇そのでしとともふ海うみぶふありぞとにマテ繁くの
人ひとぐガリラヤよりふふありきづるまゝユダヤハエロ
ワルモンイトマヤヨルダ子のあゑマテタイロー
シトンの邊へりより人ひとぐ耶穌のなむマテととて
おびおびぎぎくく群集ぐんしゅうしてかたよとさわりの人ひとぐの群集ぐんしゅう
集あつまうりてとマテなやまされぬたふ耶穌小舟こねとそ
なくちくづマテとその門徒かどよりマテとさマテえれマテがマテあマテまマテの

人ぐと愈なせしゆえよとて病やまめる人ぐん手てよて
 撫な附へらんとしてかまよとせしるゆえなりし悪あく鬼ま彼
 としりしそのまよひまよひとびてあかして
 神かみの子こなりとしりし耶穌イエスこそとあはれをこそとな
 せとまびく彼らとらまよひしさて山やまよのかりて
 うろよかなよものまびく彼かれよとわたりし
 らぬまよひまよひのまよひし教しよとのづかめたおくりし
 病やまとら鬼おにとあひまよひの權威けんいとあつてあよ十二じふに人
 と立たりしモンとテロとからしまよひしゼバダイの子こ

ヤニブとヤコブの兄弟ヨハシ子きょうだいられらとホアン子ルゲ
 となつひりなつひりとと譯やくして雷らいの子とこりふまくアレテ
 レヤピリポバルトロマイマタヨトマアルバヨの子ヤコブ
 タダヨカナのシモン丸イスカリオテのユダられ
 くそならち耶穌とこせめのなりキこれら家いへは
 入いりち食あひくひなさむれど人ひとぐまさるり集
 その親屬しんりくとつてかまへ狂氣きやうきなりとひてとへん
 とそいぞいまいエロソルモン三よりさりる學者がくしやのい
 けたへれハベルゼブルよりつれりまさ鬼おにのからと

ところ鬼とおひいひいとなり^ニ 耶穌これらとよんでたよ
 ともつてひひつゝサタナといひてサタナとおひい
 といひてつぎに國あひいひいバその國といひて
^ニ家あひいひいバその家といひてつぎにサタナ
 といひてつぎに彼といひてつぎに終
 めるものなり^ニ これも強勇者の家といひてその
 道具といひてつぎに先づつぎの縛られ^ニ ばうとよこ
 めといひて縛つてのらにこそその家といひてよばはれ^ニ 我
 こそつて汝らよつて人のよつての罪と惡口ハもくく

ゆりたらぐー元 あうーなまごう聖靈ハと悪口カするものハ
 まごもゆるらぐー元 却て永久罪ミせうらまのなり
三と耶穌と悪鬼クよ取トつれらりとつむなり三その兄弟
 と母ハととらり戶外トよ立人トとつらして耶穌とよむをせ
 ころ三おろくのめぐ耶穌ととりたまさ坐カせーがかまよ
 いひけら視哉ニ汝の母トと兄弟トそふて汝カとらぬ耶
 穌トとらよとていひけるハ母トと我兄弟トハれぞや
三ゆりらに坐カするめぐと見トまらしていひけるまよらぶ
 母トと母トが兄弟トよ三と神カの音ヒよあまぶらまのハれらぶ

兄弟まがが姉妹まがが母ははなり

第四章

耶穌イエスは海うみへよおひて教しよとくだりよおひくの人ひとぐ
 ましたあつまり一ひとは彼舟かのふねよのりて坐ましけし大勢おほせ
 の人ひとぐの海うみのまふをてあり一ひとは彼かのおひくのを
 たしとあつてかまはし教しよてしけるハ聽き哉や種しゆ蒔まぐ
 ことことなりなり四よまはしちよあまねの路ちみちのりよりみち
 しるその鳥とりをりてこまをさしあまねの土つち
 うまひ石いしぢよおち一ひとが土つちよりあ甲かをさしちよえ

どのより六されよ日どやれ根なきゆゑうれしある
 こねの棘のなふおらしう棘をさらされとさきさくれば
 實をむせむどよりしきあるこねのよき土よおらしう
 その苗をえりてくびりて實むせむとあるひハ三十
 倍あるひハ六十倍あるひハ百倍なりし九
 くるハこそ申る耳あるのハこそ一十
 十とある一の十二のでしこのことと問ふるふ
 かしらよりのひけるハ神の國の奥儀とあることを汝ら
 したまはるり外よあるものよくまらしむとわして

うけとるまされども自身トは根ねなきゆゑよとて暫時ざんじの
ものよそ後のちよとてこのよめふ難儀たんぎあるひいくるよめ
らるゝとてさへとてちよ狼狽うろたへのなかり十六ふよの棘いばらのな
うよまよとてさるものなかりこれらハ教きやうとてさるものなかり十九忘
りたぶらうこの世よの辛勞しんろうと貨財かざいのまどひとまはるもの
ごもの欲心よくしんをとりて教きやうとてさるひよ實じつとてむとぶる
ものなかり二十人教ひときやうとてさるこれとてさるひよ三あるひハ三十
倍ばいあるひハ六十倍ろくじゅうばいあるひハ百倍ひゃくばいの實じつとてむとぶるものハ
これよとて地ちよまよとてさるものなかり二十三彼かれらよとて

まつりの野菜なまいよりくわがましくまじひおとひなるを
 とくしてその鳥とりそのなびなびまらるるをいよなる
 かり三の聞きらるるまかせおとくするをいよ
 りて教しとまじひかり三よあざれば彼ら
 よがまぞ耶穌とその門徒かどあひむくそとるをい
 りて三まじひるまかおと三その日の夕ゆふに
 耶穌イエスよりひるむまのまらるるに
 うましくあつまり一人ひとごとくせて耶穌の舟ふねある
 ちよとそれとまらるるにまじひるるのこ舟ふねも

ともふありーモ おふ風かぜおらり浪なみうらえんで舟ふね
 2 殆たいていとてり耶穌舟イエス舟のともともに枕まくらしてつねさうりーが
 門徒かどまゝの目めとさましてつひける師し平や日ひわらの
 おやうとともかすひたもくさうらう元 耶穌イエスさうら
 おとて風かぜといやうめさう海うみよだれいさやうよふ
 ことといひたれば風かぜやとておむいなるなまごよなまごり
 耶穌イエスうまゝふといひけるなんぞかやうよふおとて
 や汝かたがらなんぞ信まことなまや四うまゝさうらういさやう
 それてたぐひよといひける風かぜと海うみさうまゝなまごり

かぶくろさきこれぞや

第五章

かぶくろ海とつらりてガダレ子の土地よつらり耶蘇
 舟よりめぐりてさきかちふ悪鬼よつらりつれさる
 人墓原よりぞうれよあひしるの人々墓原よ
 すまぬしそくきりあてもこころをあらうらうらまの
 かきこもさびしく桎梏とくきりてあつてあらう
 るれども鎖とらちより桎梏とらちくきりてあつて
 なりまじなまじなまじとらちくきりてあつてあつて

晝夜山と墓とふおいてまひびまゝに石とつておの

まはる身とまづいけい六その人らうふ耶穌と見く

りてこれと拜し大聲よふんせいでいなるはいりて

くく神の子耶穌よあけいこまよおいてなまごを

やうまあめいと神よ誓くせてこれとくくしむるな

うんこまと秘ぶふこれ耶穌よふ惡鬼よ入り

いでいひげまばなり九耶穌れよ汝の名はなまよと

とまよこまていひなる口まらう大勢あるゆえよらご

名レギヨととりり十ととりにこの土地よりこれらと

めいじごもなれと耶穌よ福びひー^{十一}とてそら
 山のらくよ飼^{ウイ}らる豕^ガの大^{オホ}むれあり^{十二}とてその惡鬼^{あくま}れ
 よねまひていひくるハコとと豕^ガよ入^イさせし^{十三}耶穌
 ちよふとてふゆけし惡鬼ゆらて豕^ガよ入
 がハよよそ二千^{ニせん}びとづりの群^{むら}く^{十四}絶壁^{ぜつぺき}とけ
 ぐりて海^{うみ}よとまりておぢ^{十五}死^しし^{十六}と豕^ガと飼^ひ
 のども^{十七}逃^{にげ}て町^{まち}と田舎^{いなか}よこのこを^{十八}つげ^{十九}く^{二十}バ人^{ひと}
 そのありし^{二十一}とを^{二十二}とせ^{二十三}いで^{二十四}と^{二十五}耶穌よなれ
 惡鬼^{あくま}のレギヨンよとりつれ^{二十六}人^{ひと}が衣服^{いふく}してた^{二十七}この

かゝるころよそ坐が一居あるとておそまあるまころの
こゝと見一のめも悪鬼あくよとりつれ一そのこゝ
と豕ぶのこゝととりまらよづびらままバま耶穌よその境まと
づつこゝとを祢なびんびんめめころろ 耶穌よ舟ふねよのこゝと
悪鬼あくよとりつれころ一のそれともふあるこゝ
と祢なびんびん一一丸まるされども耶穌よゆゑとてかまよと
けく汝なの家いえと家内かないのめどもよゆゑとて主まのなんぢ
よおそまひ一ゆづりあるこゝとまゝの汝なとあそれみ一
こゝとをままころろふづびびよよその人ひとゆゑとて耶穌よのおのれ

おおきなひー大なるこゝとテカポリスよのぐけきバ
 へぐふおぞろとあり^ニ耶穌舟よのつてまゝ海の
 あなつよこりーと大勢^{おんせふ}の人ぐまじよあり
 けれど耶穌海^{うみ}よちくありー^ニ視哉會堂^{みよくえどう}のつるヤイル
 とよ人こり耶穌とてその足^{あし}ゆふ^ニひそ
 らよ杯^{さかづき}つてひけるつぎにけなともあまに死
 はん^ニとす^ニす^ニせん^ニあ^ニま^ニりて^ニ手^てと^りま^じふ
 つ^りま^じふ^ニび^とあ^ま生^ぶブー^ニ耶穌^ニれ^とづ^らふ^ゆん
 よおろざらの人ぐあまひて彼^かと^おあ^ひー^ニと^ふ

十二年血漏と云づらひる女あり、其の女おかくの醫者
のあふふふとていへり、あられおのれの一人づらとて
もぐくつひや一は道なまのひもななくしてとつて
なすありあり、耶穌のこゝとて、群集のうら
らとて、耶穌衣よとれり、道そのころあふ
さつるばつらうよとて、たてとて、いり、がなり、
血のいづることとて、そのあふひとて、よとて、
と身のかげんよとて、あつら、耶穌らとて、
の道とて、大勢のいづくよ

ふりかへりてひひけるはこが夜よさるものなれぞや
門徒^三よりひかるハ群集^四の人^五ぐ師よおーあひこ
るぞよこ(三)よさるーのなれぞやといふや耶
蘇^三こ^三とな^三く^三る女^三と^三え^三と^三見^三ま^三る^三よ^三女^三お^三そ^三れ
おの^三き^三自^三分^三よ^三な^三や^三ー^三と^三あ^三り^三て^三さ^三り^三よ^三こ
の^三ま^三よ^三ー^三と^三あ^三り^三の^三ま^三と^三つ^三づ^三さ^三り^三耶蘇^三な
よ^三ひ^三ひ^三ら^三ひ^三よ^三め^三よ^三汝^三の^三信^三汝^三と^三さ^三り^三ひ^三さ^三り^三安^三心^三
て^三ゆ^三け^三汝^三の^三ま^三ひ^三よ^三お^三り^三て^三ゆ^三べ^三ー^三耶蘇^三と^三い
ひ^三て^三と^三ら^三ら^三よ^三會^三堂^三の^三つ^三ま^三の^三家^三より^三人^三ぐ^三さ^三り^三

いけらぬ汝のむとめとてよ死せりなんぞまゝ師よ苦
勞とるけるや 耶穌つげしとてつけて會堂の
つきたりいけらぬむとめなれし信仰せよ 耶穌
テロとヤコブの兄弟ヨハンの家よとてとん
よとていけらぬぞ 會堂のつとめの家よとてとん
なとていけらぬぞ 歎き泣きむとめとて入て
よとていけらぬなんぞ 騷らむとてや娘子ハ死
せらふあしとていけらぬなり 耶穌とあ
せらふとていけらぬとていけらぬとていけらぬの父

耶穌こゝぞさうりてみるごとよいりけしバネの門徒
もくれよとさうひり安息日よなりて會堂よて
よへるめければさう人ぐあやみてこのとハ
いづらりこの人よあつちかへりさなるさうも彼
の半よてなとやうよ彼よさうり智慧くなふ
ぞやこれハマリヤの子よて大工よあつちやこれハ
ヤコブヨセユダとシモン兄弟の兄弟よあつちやその姉妹
もさうよつちやさうあつちやさうりて人ぐと
耶穌のよめよ狼狽四り耶穌よさういりけるハ

預言者ハその故郷ヨリ出てその親屬トその家の外
 尊たまねらるゝものなり^五。此のころ、その書とてけ
 てやせし外、そのたにうゑなることとかなむことあり
 くとせしむるもの信せらるゝとあやしむること
 めづつてよへし。耶穌十二の門徒とてびてまゐると
 二人づつとてつらつらとめ悪鬼とてひひとこの權威と
 してまゐりし。旅の用意は杖一本の
 外、旅袋も食物も、胴巻も金もなかり持
 びし。草履とくまひの衣とをふるがれ

命^{めい}どけり⁺ち^こま^らふ^いひ^りえ^{何處}よ^も人^{ひと}
の家^{いへ}よ^入ひ^びく^ばその^まろ^ろと^去ち^てい^そこ^ふと^れ
^土ち^りお^よそ^を汝^{なんぢ}ら^とう^けひ^ど汝^{なんぢ}ら^よこ^らぶ^るを^のよ
お^ひて^いその^まろ^ろと^去ち^てい^そこ^ふと^らに^證據^しの^こめ
よ^汝ら^の足^{あし}の^下の^塵と^らへ^まこ^とに^りれ^汝ら^よ
つ^ぐん^審判^の日^ひよ^ソド^マと^ゴモ^ラの^刑い^{この}邑^{むら}よ
ア^なが^やと^るべ^ー十二^の門^で徒^とぞ^人ぐ^よ悔^い
改^めつ^こそ^を説^ひろ^めま^しい^おち^の惡^あ鬼^{おに}と^おひ
い^ごち^の病^{やま}い^るもの^よ膏^{あぶら}油^とつ^りて

いちぢせり^五 耶穌の名^なひら^らづ^らりければ王^{ミカド}のヘロデスこれ
 とていひけるハ洗禮^{せんらい}となせ^せヨハ子^{ヨハネ}なりとていひ
 それゆゑよ^よふ^ふなる^{なる}ことあり^五 あり人^{ひと}
 こ^こエリヤスあり^{あり}といひある^{ある}ハ預言者^{よげんしゃ}なりと預^よ
 言者^{げんしゃ}のひとり^{ひとり}の^のいふ^{いふ}事^{こと}ヘロデス^{ヘロデス}とていひて
 いひけるハ^ハこ^こエリヤス^{エリヤス}首^{くび}刎^{ぎら}れ^れヨハ子^{ヨハネ}なり^{なり}これ^{これ}よ^よみ
 づ^づら^らり^りか^かね^ねて^てヘロデス^{ヘロデス}とていひてヨハ子^{ヨハネ}
 とていひて^{とていひて}牢屋^{ろうや}よ^よつ^つあ^あぐ^ぐこれ^{これ}ヘロデヤス^{ヘロデヤス}といひて
 兄弟^{けいだい}ヒリッホ^{ヒリッホ}の妻^{つま}の^のこ^こえ^えに^になり^{なり}て^てなり^{なり}といひて^{いひて}あ^あれ^れバ

坐上じやうじやうよこころりむざりてへロデスと座まよある人ひとぐと

このもせはしもバ王バウその女子むすめよひけらる汝なんぢが欲あつそる

このハなふも我われよ神かみがへよとて汝なんぢよあふべ

わしよした誓ちかひて汝なんぢよとそ欲あつせらるのハコが領あかつかひ分の

半かたよいころもぞも汝なんぢよあふべ一言ひとことむとあひでその

母ははよ何なにとわづぶとさやといひければ母ははよふら洗せん禮らいと

なとヨハ子この首くびとつりむとあふとちふいそむと王バウよ

こころわづぶて洗せん禮らいとやとヨハ子この首くびと盆がんよのせ

てとみやふられよたふんよと欲あつそるなりといつり

王^{ミカド}がふびで憂^{うれ}げをせよと誓^{ちか}言^{ことば}且^{かつ}同席^{どうじやく}のめのゆゑよ

これとらざるむとも欲^{ちか}せよとモ王^{ミカド}輕卒^{あがる}とつ

うつヨハ子の首^{くび}ともらせしれと命^{めい}トけしと人^{ひと}彼^か

ゆゑそ牢屋^{らうや}よおいてこれを首^{くび}とらり^とそその首^{くび}と

盆^{ぼん}よのせりらるりて女子^{むすめ}よあへけしと女子^{むすめ}こ

とそその母^{はは}よあへてヨハ子の門徒^{かど}よのともと

聞^きこりてその屍^{しんね}とらり墓^{かぶつ}よらりむりてり^とと

使徒^{しと}耶穌^{よす}よあつかりてなせしとてり

とともぐくまはたつげり^と耶穌^{よす}よあつかりてり

汝らと人々とさびけて淋さとあつたよゆきとあつた

休息せんとこれ往來せらるものおろくして食事の

ひもよなひればなり 進んでさびけて舟までさびけ

ととらあよゆかり 人ぐとくねくのゆくと見おそ

く耶穌とありて邑くより歩行までかこらよ

ととら彼らよ先ごら耶穌よあつかりととこれと

耶穌とぞ人ぐのおろくあつかりと見その牧りの

なま羊のこらさめのならふよつてこれとあつて

進んでおろくのこらを教へり ときふ時

よむどよむどそその門徒れよそふりひひける
人なるとそふりて時ゆふおそし人ぐ
食物なるとゆきよとて自今よ食物
と買ふあよあふりの邑くよゆあしそ耶
穌よそてまうよ食物とあふふとひひけと
門徒れよひひけるはとゆき銀二百とありて
餅と買ふねらの食物よあふふとそ耶穌よ
らよひひけるハ餅いそつあるゆとそよかま
ありて五つと魚二つなりとそり耶穌よそての

人ぐと青草のうへに組くよて坐せりめと命

しげれバ早人ぐ百人或ハ五十人づ並て坐せり四 耶穌その

五の餅と二の魚とをとり天とあざ謝して餅とより人ぐのま

つよむくよめよ門徒よあそくかひふらふの魚と

人ぐとよかけあそく一 人ぐとふ食して飽けり

のうらうら餅と魚のくぢとひらひて十二の籠ふ

みそり 餅と食せりものおまを五千人たり

よちらよ耶穌自今ハ人ぐとあせりうらふ門徒と

ちひて舟よのせとあたまむらめとベツサイタよ

四五

四三

四

四五

こゝろにありて、^{四六}六人ぐとが、^{四七}七日のあふ山
よみけり、^{四七}日くれて、^{四八}舟ハ海のなふあり、^{四九}耶穌ひより
ぬにありて、^{五〇}風逆らふゆきよで、^{五一}舟とこごよ
つねるを、^{五二}曉七つ時ごろ、^{五三}耶穌海上とあゆ
と、^{五四}りて、^{五五}過んと、^{五六}ふ、^{五七}門徒れが海上と
あゆと、^{五八}て、^{五九}變化のものと、^{六〇}あひて、^{六一}さびびり、^{六二}それ
門徒、^{六三}ふかれと、^{六四}て、^{六五}あひて、^{六六}さびなり、^{六七}と、^{六八}らふ
耶穌、^{六九}まゝに、^{七〇}かり、^{七一}いひけり、^{七二}ふ、^{七三}ちと、^{七四}れ、^{七五}我なり
ぬ、^{七六}そ、^{七七}な、^{七八}耶穌、^{七九}舟よの、^{八〇}り、^{八一}て、^{八二}風、^{八三}や、^{八四}り、^{八五}と、^{八六}らふ

心中^{しんちゆう}よこそのゆるゆづろきあや^{五二}ありこれそのこ
ろ鈍^{とん}くして蒸饅^{げん}のふいぶいもしむひよとそござら
なり^{五三}よかくらりりりてゲ子サレといふ地^ちよいらり
て舟^{ふね}がりせり^{五四}まじく舟^{ふね}といづるよよさらふ人^{ひと}
耶穌とありて^{五五}あまなくそのあつりの土地^{とち}とはひ
て耶穌のあるところごときまじりて卧床^{ねどこ}のまふ
て病^{やま}ふるものとりたひいとる^{五六}わよそ耶穌のい
るところあつひの邑^{むち}あつひの城^{じやう}下^かあつひの在^{ざい}ごんぐ
病^{やま}ふるものとその市場^{いちば}よひそそその衣^{ころも}のちごひても

押おらせたまふと彼かれは餅もちをとりまふとちよとる初はじめ
のいのちをふいそつり

第七章

パリサイの人ひととエロワルママよりきこひしあるある學者がくしゃ
ども耶穌イエスはあつまりとこつりその門徒かどのうらよ
つねの手てをまふとちあつとる手てよて餅もちと食たむ
とちこれとちあつりつとちパリサイの
人とユダヤユダヤの人ひとぐのち古人こじんのいひつとちよ
てその手てとたびくあつとる食たむとち市いち

くらひければあつふれば食せどもいりふ杯碗鍋
 膳とあつふなどいろくのこをさつこまわれり五ハ
 カイの人と學者どもも耶穌よとひけるハ汝ので
 古人のいひつこよあつふとどしてつねの手よて餅
 と食するハなんぞや六耶穌うててまうふいひ
 けるハエザヤと偽善者のなんぢらと指てよく預
 言せりそのちをねーとてこの民ハ口よさうて
 ころもたつとあつふそのころくはさふ遠ざり
 ころなびく彼らく人のいひとめと教となして

人と教ていづいふにあはれたまはる。ハ、かた神のいふに、あ
 とよめて人のいひいひあはれたまはる。とあはれを、鍋なべや杯さかずきと洗あはふ
 こもや。種ゆめぐのふたぐひのこも、汝かみちらおこなはばあ
 りなま。彼かみちらふいひりら、汝かみちらおのれのいひいひとあは
 らんとて、く神かみちのいふに、あはれを、かみちモーセのいひ
 一、汝かみちの父ちちと、汝かみちの母ははと、あはれを、かみちおらそ、父ちちあまひ
 ハ、母ははとのあはれ、のハ、かみちモーセ、かみちおらそ、なんぢららの
 いふに、かみち一、父ちちや母ははよ、かみちあはれを、かみち供養くやうと、かみちいふに、
 のハ、コルバンなり、かみちいふに、かみちコルバン、かみち譯やくを、かみち

供物^{まつもの}なり^土 ちんば^{かんぢ}ら^らは^はよ^よその父^{ちち}あり^ひハ^ハその母^{はは}と
扶助^{たすけ}せらる^{こと}とす^し一^もゆる^{こと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一

一^もゆる^{こと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一 神^{かみ}の^{こと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一

ま^まま^まの^{こと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一 耶穌^{イエス}ま^ま

人^{ひと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一 銘^{めい}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一 聞^き

ま^まま^まの^{こと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一 人^{ひと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一

ま^まま^まの^{こと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一 人^{ひと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一

ま^まま^まの^{こと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一 耳^{みみ}あり^てと^まかく^{かんぢ}汝^がと^一

ま^まま^まの^{こと}と^まかく^{かんぢ}汝^がと^一 家^{いえ}よ^ま入^りよ^まその

門徒でとてのこころをひげれがたまはりにひかるの汝なんぢら
 もまじらぬまじらぬものにおよそ外そとより人ひと
 ようきよめの人ひとよびなるとあいつがいつかたつて
 らざらるたらふとなればそのまじりよきまじりて
 腹はらよりよぎての食物あじものとまじりてるか厠かひやよりつまる
 いひける人ひとよりつるものハまじり人ひととまじりてものなり
 けふとまじりて悪念あくねん女かん淫いん邪淫じゃいん凶殺きゆうさつ盜竊とうせつ貪欲とんよく恨うらみ
 偽計いつはり好色こうしき疾視しやくし惡口あくぐち高慢かうまん癡ちほうなることまじりて内うちよりつら
 人のまじりつる三それらのあしきことハまじり内うち

けりて人^ハと^ヒげ^テもの^ナなり^ニ 耶穌^キと^シて^テタイ
 口^ニと^シド^クの^ミひ^ト入^リ家^ニと^シて^テ人^トと^シて^テ
 欲^クせ^ザれ^ドも^カれ^エざ^リ—^五つ^クふ^トな^レバ^悪鬼^ト
 と^リつ^レい^ハけ^レば^女子^トと^モら^スら^スん^カ 耶穌^キの
 こ^トを^聞こ^シて^テその^足と^シて^テふ^セば^ナり^ニ^六この^とん
 なく^シサイ^ロピ^ニシ^ヤよう^めれ^ーレ^子の^めの^ナり[—]が
 つ^グむ^シめ^の悪^鬼と^モひ^つて^ーた^ゆと^と 耶穌^キ
 福^クづ^つり^モ 耶穌^キと^シて^テひ^つつ^ハま^づ小^兒と^シて^テ飽^ア
 せ^ズて^ーん^とな^レバ^子の^餓と^シて^テ犬^トと^シて^テ

なぐるハハ、
 主ちろりとねもだいの下の犬よても小兒の食屑と
 食と元耶穌とんあよひけるハ、このそとをたよつて
 か、悪鬼と汝のむきあふりぞろ、耶穌とんあよひの
 家よか、悪鬼とぞふぞむきあハ床よふ、た
 るとそつり、耶穌も、タイロとシドンのそひと去
 て、テカポリスのそひのうちとよむ、ガリラヤの海よつ
 けり、人ぐ聾^{スガ}として、訥者と耶穌よつ、手とそつり、手
 とこれよつ、手とと、耶穌とんあよひつり、耶穌とんあよひつり、人ぐ

たり他所トキよつれてゆびと其の耳ミミよとて一ヒトも中ナカへ吐フて
 てその舌シタよとて一ヒトも天アメとあつて歎ナゲじてその人ヒトよエツ
 パタとい譯ヤされが啓ヒれども一ヒトも義ギなり言コトふぢりよ
 その耳ミミのつれ舌シタのつれ言コトとて言コトふ事コトのつれ
 ころトキ耶穌イエスもつれ人ヒトよとて言コトふ事コトのつれ
 ころトキもつれ言コトふ事コトのつれ言コトふ事コトのつれ
 よあつて言コトふ事コトのつれ言コトふ事コトのつれ
 ころトキ聾者ソウシャとて言コトふ事コトのつれ言コトふ事コトのつれ
 ころトキのつれ言コトふ事コトのつれ言コトふ事コトのつれ
 ころトキのつれ言コトふ事コトのつれ言コトふ事コトのつれ

第八章

そのころあつまる人ぐとあつておやくしてなんの
食物あぐもつもなかりけしよバ耶穌その門徒でいとよびていひ
けらハニいよこのおやくの人ぐとあつれむむと
なればとてぞよ三日ちゅうとれとてふとちりーゆゑ今
なほも食物あぐもつなかりもー飢うしてその家よかきぶ
途中ちゅうよつねんそのうちよ遠地とんよりさちりー
りのあまはなり四その門徒でいよとよらさひらハこの
人ひとなむとちりふおひて何處いづこより飢うとえてその人ぐ

と飽^あよぶ^らや^五 耶穌^{イエス}ま^つてふ^らひけるハ餅^{パン}いくつあるや
 七^{なな}と^つり^六 耶穌^{イエス}人^{びと}ぐ^と命^{いのち}じて地^ちに坐^ませしめ^七の餅^{パン}と
 して謝^{あが}して擘^{ちぎ}人^{びと}ぐのま^まに^にゆ^くたあふその門徒^{でい}に
 あ^まさ^しむ^らば^ばよ^よふ^らん^ん人^{びと}ぐのま^まに^にゆ^くたあふよ^よび^びり^りセ
 さい^{さい}づ^づみの小^{ちひ}魚^{いし}と^とめ^めて^てり祝^いしてこ^こゆ^ゆき^き人^{びと}ぐ
 のま^まに^にゆ^くたあふと^とり^りハ^ハよ^よび^びバ^バ人^{びと}ぐ食^たして飽^あ七^{なな}籠^{かご}不^ふ
 どののま^まに^に餘^{あま}屑^{くず}と^とひ^ひろ^ろひ^ひ一^{いち}食^たせしめ^め人^{びと}ぐ
 と^とゆ^ゆき^きを^を四^し千^{せん}人^{びと}なり^り一^{いち} 耶穌^{イエス}これと^とわ^わせ^せり⁺ 耶穌^{イエス}と^と
 ち^ちふ^ふその門徒^{でい}と^とゆ^ゆき^きよ^よ舟^{ふね}に^にの^のり^りて^てタル^{タル}マ^マヌ^ヌタ^タの^のま^まに^に

けしよはハリサイの出入でれ議論ぎろんとてひてられと
 ろろあふ天てんよりの休徵あしとてあり±耶穌心中イエス心中よふ
 く歎息たんそくとてひけるハこの世の人この世の人なんぞあつとて
 ひろやまをたにられ汝なんぢらよつびんあつハこの世の人この世の人
 あつとてあふあつとて耶穌イエスとてとてなれとて
 舟ふねよのりむふとてられとて門徒かど餅もちとてつとて
 とれて舟ふねよ一の餅もちのつとてあり±耶穌イエスとて
 けしよめそひひるハ氣とつてパリサイパリサイの人の蒸餅せんもち
 酵たねとヘロデの餅もちとてとてとてとて±門徒かどたがひよ

議してひひけるはこれより進んで餅をゆゑぬえなり

耶穌これをありて進んでひひけるはなほゆゑに汝

ら餅のなまをを議しあひやいしををせしむる

汝らのこころなすよづめあつる大目ありて見えざらん

耳ありてこそ見えざらんまことにおろえざらんこれ五

千人よ五の餅とよりあつて時餘屑の籠りて拾ひ

門徒ひひけるは十二なり手すし四千人よ七の餅と擘あつて

時餘屑の籠りて拾ひや門徒ひひけるは七なり耶穌彼

らにひひけるは何れをゆゑにや耶穌ベツサイダよいつらん

小^こ人^{ひと}ぐ^ぐと^と建^たて^て置^め者^しと^とつ^つき^きさ^さら^られ^れな^な手^てと^とつ^つけ
 た^たま^まへ^へと^と祢^ねぐ^ぐひ^ひこ^こり^り耶^よ穌^すめ^めら^らる^るの^の手^てと^とつ^つて^て邑^やの
 そ^そと^とよ^よつ^つき^きぞ^ぞそ^その^の目^めと^と咄^{はな}して^{して}手^てと^とそ^その^のこ^この^のう^う
 よ^よあ^あら^らな^なら^らず^ずも^もゆ^ゆら^らと^とさ^さひ^ひひ^ひま^ま言^いめ^めら^らる^る目^めと^と
 あ^あげ^げて^てソ^ソの^のハ^ハこ^これ^れ人^{ひと}ぐ^ぐの^のあ^あら^らと^とら^らふ^ふ木^きの^のこ
 と^と一^いつ^つみ^みよ^よ耶^よ穌^すも^も兩^{りょう}手^てと^とれ^れの^の目^めと^とあ^あら^ら目^め
 と^とあ^あげ^げて^てま^まを^をせ^せけ^けば^ばま^まあ^あら^らな^なら^らず^ずも^もあ^あら^ら
 ら^らふ^ふま^まを^をさ^さら^らり^り耶^よ穌^すと^とそ^その^の家^{いえ}よ^よう^うつ^つて^てせ^せて
 邑^やも^も入^いら^らな^なれ^れま^まい^いひ^ひの^の人^{ひと}も^もつ^つづ^づか^かれ^れと

とよそとよましくふあつてあり^三且このことを
明白^{めいびやく}よかたりーペテロ耶穌ととりあつていし
めたりーふ^三耶穌ふりあつてその門徒^でと見えペテロ
といふめていひけるカタナよりかういふものけ
いんとなれば^三汝^{なんぢ}人のことめかつてきて神^{かみ}のこことと
うつていふ^三人^{びと}ぐとこの門徒^でともたふびてれ
らふりひけるおまをわれよあつていんとあつて
めいとおのれをまていづるの十字架^{お十字架}ととりあげ
ていづるよあつて^三それおまをいめらとたふけん

とあつてゐるものゝこれとてうゝなまらんこがごあま
 福音イブンのふゆよあめれがいのちひうゝなまらんめいひあ
 らちこれたまぐべ三六いんまねバ人ひとが世界中せかいぢうを
 まうけるもあめれのいめらうゝなまらんなんの益えき
 あんや三六且かつもこ人ひとなまをうてそのいのちよかえ
 や三六申まをよおとそを姦かん悪あくなる世よよおいてくれとて
 こゝごとと恥ちぢもあめい人の子こもまを清きよき使つかとてまよ
 その父ちちの光明こうめいとてまをさしてまよこのめと恥ちぢ

一

第九章

耶穌まゝにかまへたるにひけるハこれまゝに汝ら
よつげんらふらめら神の國權威も
つてとらるをみるまで死にざるものありとて
六日むいかのち耶穌ペテロヤコブヨハ子とさばなして
らねるものとたゞさ山やまに連つのりりねるのまゝに
すゞかきらりらとありてその衣服かや雪ゆきの
ごとくいとちろろ世界の布ぬのさくもかくちろく
く成なりあつとらむとエリアとモーセかまへらるゝとあつとれ

とさまでハ見^ミ—とさあのをささくれまもかふることを
 禁^トじり⁺かしてこの門徒^ドもふこのことをごとかり
 ろのよみづるといふはなまのまやとたづひふ論^ロあり
 つり⁺かましく耶穌よとていひけるハ學者^ガハエリアと
 前^{サキ}よとていふはなまの比^ヒえぞや⁺耶穌と
 とていひけるハエリアハ實^{ジョウ}よとていふはつて萬事^{マンジ}
 とありていひける人の子^コよつていふはなまの
 みをうけ且^ナ輕^カんざらうかこもかといふはなまの
 あり^ナされども^ナはれ汝^ニらふづいんエリアもよとていふ

人々を驚かすはついであるとされてあり一とてく
 人ぐらうよまをせめておぼしとありらひ一^{十四} 耶穌門徒
 よいさるふおろくの^{十五}人ぐれらふよりあつさり且
 學者^{十六}わくと議論^{十七}とるといふ^{十八}人ぐらふ
 くとまをせおろくを走らりそれよあつとつと
 たり^{十九}耶穌學者^{二十}よとひけるハ門徒^{二十一}となよと議論^{二十二}とる
 やまあつさり^{二十三}人ぐのひよりさへていひけるハ師^{二十四}や
 りれまのいそぬ^{二十五}惡鬼^{二十六}よとりつれらる^{二十七}子^{二十八}と汝^{二十九}よ
 ついでこれ^{三十}何處^{三十一}よても^{三十二}惡鬼^{三十三}これよとりつ^{三十四}バ

それとなげなをすまふらん彼ハ泡とよき菌と
ありとてつれなるなり我道とおひつとせし
と主の門徒よとむーかども彼らあそむるなりー^{十九} 耶
穌うれくよそへていひけるハ嗚呼信なき世かな
何時までもわれ汝らともふあらんやいつまでもわれ
かんぢらふ忍ばんや彼とわれよ建ておれ^{二十} 彼ら
その子とて建ておらんや耶穌とてきたらまら悪鬼
とれとひきつけさせ地よなをれてらけまらび泡と
ふきさら^{二十一} 耶穌その父よといひけるなり^{二十二} かな

ならうや父ちちといひけりてけなまき時ときよりなり三志こころを
 くれとらあきんとて火のなつちを水よなびたりとて
 ども貴君あがきみ何なにごとくもよくなまきなるばあえれみせてくれ
 らとていひけたまふ三耶穌イエスかまふといひけるハ汝なんぢも信まこと
 ぜるならうバ信まことぜるものよおいてハ何なにごとくもよくな
 まきとていひけるものなり言ふちふ子の父ちちもまづつきてなま
 だとていひけるハ主まやまね信まことぜり信まことなまきとた
 せけり三耶穌イエス人ひとぐの走はしりありあつちとてて惡あく
 鬼おにとせめていひけるハ暗啞おんがもて聾ぶんがなる惡鬼あくおによ我われ

汝は命をえれとせむとてふに遂に入らざれ 惡鬼
 入りておぢいふまじとひらけをせていぞよかれ
 死しうりといふぞふ彼れ死するものごとくなまじり
 耶穌手とりておごりて進ばらたり 耶穌家より
 一ふその門徒ひそふとひけるはわれらのあめのを
 おひびしあはれむるハなふゆゑぞや 耶穌ひひける
 祈禱と断食よあはれバけそあなたがひはつづ
 ぞ かのくくるとさりてガリラヤとをり 耶穌れ
 そまをあたとつせざりさ しまとなれバその門徒よ

ちかめてソハけるハ人の子人ぐの手よつとされおどろ
 くと殺せとあらされてのち三日めよふみどくをべーと
 されども門徒のいもどとよもももどきも問こととおそれ
 して三さて耶穌カペナオムよいつり家よどりて門徒よ
 ちひけるハ汝ら途中よそてなふとふひは議論せ三四
 門徒黙然三たりこれ途中よおつてされう長くもどとた
 びは議論三しなればなり三耶穌坐三その十二とふび
 てかきつふいひけるハもかからんとつらむるのハ
 諸人のすえをも三諸人のつひとかなべ三童子と

ところへいづれのなまふしてこれといひて彼らに
 いひけるハモおほそくこの名よりてかみのこころさ
 ひとりの童子とてうくるものいひておほそくうくるなりま
 おほそくこれとてうくるものいひてこれとてうくるはあはれ
 おほそくこれとてうくるものいひてこれとてうくるハヨハシ
 れおほそくこれとていひける師やこれらとておほそく者
 がおん名よりて悪鬼とおひいひておほそくこれとて
 とておほそくこれとておほそく禁せし耶穌といひけるハその
 人とておほそくこれとておほそくこれとておほそくこれとて

ぶらりつとをばあふのハカクぐーくこれとそーる
 まのふあくとを^早そ進これらよ敵拒^{てきたハ}ざらりのハはふら
 くれよつくりのなり^四いふとなれば^{なんぢ}汝らキリシトよ
 屬^ぞせらりのなるゆゑよとて^五コゴ名^なふより一杯の水^{ちゆう}
 と汝^{なんぢ}らよ飲^{のみ}せらりのハこれさるとに^{なんぢ}汝らよつげんその人^{ひと}
 と報^{ひかひ}とうーかえとせらるべー^四まゝいおとせこれと信^{しん}ぜら
 小^{ちひ}さめのいとりとまどととまのよく磨^ひ白^{しろ}とその首^{くび}
 ようけて海^{うみ}よなけい^いまゝとそとそその色のり
 尤^{なほ}まゝとま^三おれ^三もー汝^{なんぢ}の片手^{ひとて}なんぢとまどととま^三

これとさうりされ^{アキラ}両手^{アキラ}ともちりて^{アキラ}地獄^{ぢごく}とえざる火^ひよつ
 り^四殘缺^{ざんけつ}よそ命^{いのち}よつと^五汝^{なんぢ}よおしてよとさうりなり
 か^四しこよつもの^五蟲^{むし}つとぞ火^ひもとえざるなり^五汝^{なんぢ}
 の片足^{ひとあし}汝^{なんぢ}とぞとく^六なぐいし^七つと^八なり^九跛^{わだち}よそ命^{いのち}
 地獄^{ぢごく}とえざる火^ひよなぐいし^十つと^{十一}なり^{十二}跛^{わだち}よそ命^{いのち}
 よつと^{十三}ハ汝^{なんぢ}よおしてよとさうり^{十四}か^{十五}こた^{十六}つもの
 うと^{十七}つとぞ火^ひもとえざるなり^{十八}も^{十九}汝^{なんぢ}の片目^{ひとめ}汝^{なんぢ}と
 ぞとさうり^{二十}とぞ^{二十一}ぬい^{二十二}せ^{二十三}両目^{ふため}ともちりて^{二十四}地獄^{ぢごく}の火^ひ
 よつと^{二十五}ぐいし^{二十六}つと^{二十七}なり^{二十八}片目^{ひとめ}よそ^{二十九}神^{かみ}の國^{くに}よつとえ

第九章

汝なんぢも、おしそ、よも、こも、や、り、只、か、ら、た、い、の、め、の、蟲むしつ、こ、で
 火ひも、と、え、ざ、ら、な、り、い、ふ、と、な、れ、バ、人ひとも、た、火ひと、も、そ
 鹽しほつ、く、べ、ー、さ、い、ぎ、ご、の、供、物ともものも、鹽しほと、も、つ、て、鹽しほつ、く、べ、ー
 鹽しほハ、ま、い、め、の、な、り、と、れ、ど、も、鹽しほの、味あじな、く、あ、ら、バ、な、ま、と
 も、つ、て、れ、い、味あじと、つ、い、ん、や、心、中こころに、鹽しほと、も、つ、て、た、び、い、よ、む
 つ、く、と、べ、ー

第十章

耶穌イエスも、と、い、こ、ら、て、ヨ、ル、ダ、レ、の、あ、あ、い、と、と、り、ウ、タ、ヤ、の、よ、も
 ひ、の、う、ら、よ、い、く、る、ふ、大、勢おほいせの、人ひとぐ、も、彼かれも、あ、つ、ま、り、ふ

つねのどくもきかじつと教へパリサイの人さうり彼れ
 とさうりみんとそ人その妻といふをハまうりさやとどひ
 けとバニうていひけるハモーセハ汝らふなを命せや彼
 らいひけるハモーセハ離縁状とさうりこれといふとことと
 ゆりせー五 耶穌さうてさうりいひけるハモーセ汝らの薄
 情なふさうてその掟とかさうりあれども開闢の
 くとめ神人と男女よつくりせるのゆゑよ人ハその父
 母とくふれその妻よさうて二人ハさかちら一体と
 なるべしよつて猶さうりよあさうとて一體なる故よ

神かみのそとせしとらるのまの人ひとこれとくあせぶ
 ぞ+家ゑよおいて門徒かどちここのととひけれ+ば+まら
 よひひりえぬそその妻つまとぶしてちの女むすめとめくら
 まのくそのとんぶよ姦淫かんいんとおらぬ+なり+まら+め
 とんぶその夫とととぶしてちふ嫁よめぐあはるの女むすめ姦淫かんいんと
 おらぬ+あり+まら+人ひとぐ耶穌イエスよとらる+せん+て小兒せうじとつ
 せとらる+て門徒かどそのつれとらる+てのといまめ
 ころ+耶穌イエスこれとてころとらる+みかたにひひり
 小兒せうじのこれとてころとてこれをとらる+あられ

いふとなれば神の國の人々を思ひのぞきよめたり主や
 ちたれば汝らもついでに神の國と小兒のどく
 ちてらるるものいふにいふに主よめたりこれ
 といふに手とそこのくよのせそそのあに賞美せり
 耶穌みらふづるよひより走らるひびきまづとてねよ
 とひける善なる師やこれかぎりなきよめちとえんとて
 なるよとあそぶとや大耶穌よよひけるなんぞこれを善
 と稱するやひとのりの善なるものありとて神
 たり主汝掟ととる姦淫とるなれ殺られ盗られ姦

の證據といふなれ 掠るなれ 汝の父母とやまふべし
 か進こゝしてしひける師やられいとなき時より進
 こゝかちまはるるニ耶穌これをつくつくそつくくみひるる
 汝一つを欠り往け所持のものと賣てまづ一さきのみ
 りとせよとせよとれバ天よおいて財をくらべりてと
 ころ十字架ととりて進よとてくニ進こゝのとき
 よよつて憂ひかゝりみそゆきいさむとやれバ大
 なる身代とつきのなればありニ耶穌見まゝしてその
 門徒よしひける富の神の國よいるはふはかみ

かた言門徒のこの言をばたにおどろかすなり耶穌ハま
さきていよいよいひける小子や身代と特の神
の國よつたといふもかたひか言富の神の國よ入
り駱駝針の穴と通くやとさこそなり言門徒を
のろたむどろかさつていひけるさばたどくらの
のハ誰ぞやモ耶穌かまるとつくりていひける人
よらしてハあそむと神におそハあそむとせうふとなれバ
萬事神よおそハあそむるとさあなまなり言ペテロ
よといひくもあけるハまよひて一切をて夫子

よきことなり元耶穌こそていひけるはまことなるれ汝ら
 よづげんこれと福音のこゝにあに家あるひに兄弟あるひに姉
 妹あるひに父あるひに母あるひに妻あるひに子どもあるひに
 田畑とてそとにものこすいまこの世よおいて百倍うけざる
 のなりとてかゝるち家兄弟姉妹母子ども田畑くらゝのみ
 とてたうけずこのちれ世よかざりなまこといめらとらうく
 べしとていかなぐらゝおろくの先のものハ後よなり後の
 のハ先よなりとていさそくエロリルマよのから
 とらとて途中よそ耶穌門徒よとていさそくいさけれど

かれら皆どもも且ちさうつておそれ 耶穌や十二とつれ
 てまゝにおのれよとらんと思ふとこのことをかきしふ
 つげくめけり 三 視よこれら 二 エロソルマよのびりて人の子
 ハ祭司のどもと學者よとていされてもつてこれと死罪
 よとめ異人よとてい 言 せしことと嘲弄しむらうち
 喩し つ ぬい 言 せしことと 一 且三日めふよみがるべし 三
セ ベダイの子ヤコブとヨハ子耶穌よとていりていひけるハ
 師やそれらがのこむることをとられらなうたまへんこと
 と わ げ ふ 三 かし つ よ い ひ け り ハ い づ れ の 汝 ら ハ な る よ と あ せ を

わづみやま マ につひける御威光ごいこうのあるところへ
 ひたりはあふみの右みぎひたりはあふみの左ひだりに坐まして
 耶穌イエスもついにひけるは汝らなんぢらはわづみやまを
 飲むのむところの杯さかずきと飲むところの洗禮せんらいと
 うちやえもついにひけるはよくまべー耶穌イエスられた
 りと汝らなんぢら實まことと飲むところのまべーのまべー
 うちと飲むの洗禮せんらいとまべー 早まべーあつと右みぎ
 左ひだりに坐まして飲むところのまべーのまべーにあつと
 たねとまべーのまべー 早まべーのまべー

四十 十人の門徒でこれてきてヤコブとヨハ子といふと

三 耶穌もつとよびてソハけるハ異國いこく人の上うへと

もよのハこれと領うり一も長ながものともを支

配くわいを三 汝なんぢらのうちハちとせづせびかつてされま

汝なんぢらのうちハ長ながさんとつせものハ汝なんぢらつと

のちとせづせ一四四 ちと汝なんぢらのうちされま頭かぶとなさんと

ちとせものハせべての人ひとのちとせづせとなづづいふな

人の子も人ひとよつとくくあふさささど却かへて人ひとふ

つとせおろくの人ひとよかかりて命いのちとあててつくなふ

いあなり四六さてエリコ四七に四八つれり耶穌門徒四九とおろひ
なる群集五〇の五一入ぐとエリコとづる五二とテマイの子なる
めら五三バルテマイ五四みちの五五くらに座五六して五七乞五八けり五九と六〇其六一
の耶穌なりと六二きてよむ六三と六四かりて六五ひけら六六ダビデ
の子耶穌六七よ六八れを六九あ七〇れみ七一と七二入七三お七四ろく七五の七六入七七ぐ
これ七八な七九れと八〇い八一め八二け八三れ八四も八五あ八六ら八七せ八八く八九ダビデの子九〇
よ九一これ九二を九三あ九四れ九五と九六入九七と九八よ九九む一〇〇り一〇一け一〇二バ一〇三耶穌一〇四行一〇五て
れ一〇六と一〇七よ一〇八と一〇九命一一〇ト一一一け一一二れ一一三ハ一一四入一一五ぐ一一六め一一七ら一一八と一一九よ一二〇び一二一て一二二れ一二三
と一二四ひ一二五け一二六ら一二七安一二八心一二九せ一三〇よ一三一起一三二て一三三耶穌一三四汝一三五と一三六よ一三七め一三八ら一三九と一四〇その

外套うへぎとせきなちて耶穌イエスよこりこり耶穌イエスらしてかきよひ
ひけくはば汝なんぢよなふとかなとと祢なんぢがふやめくひひけく
主しゆよみることとうけくくおふ三耶穌イエスよこりこりひけくはば
汝なんぢの信仰しんぎやう汝なんぢとよせけりたらふれみをもとうけ 耶
穌イエスよみちよあかがり

第十一章

かまろくエロソルマよらろづ二橄欖山のベツパギとベタニヤ
よするととと耶穌イエスよこりこりの門徒かどとつとて二なれらよ
ひけく汝らの對面むかひ村むらよゆきむしたりにバガ二ちよ人の

おろくおのれの衣服と路とともあるハ木の枝と
とりてみちよしと前よゆりの後よとよ
まのどもよとていひける萬福歟主の名と
つてとてこのハちやるべーとそれらの父なるダビデ
の國主の名とりつてとてこのくちやるべー至て高
くろろに萬福歟主 耶穌エロソルマより神殿よ入
てことく見ゆくらせり時よでふ暮げよハ十二と
とよにベタニヤよいでゆり 明日よとつとベタニヤより
とてとてとて 耶穌飢よ主とつとふ葉ある無花果乃

樹をきてその木よなみありあるやとてさされり
 て葉のりふなむもささりーこれ無花果のよきに
 めくさればかり^古耶穌こつてこの木よ此のち長^カ汝^ニの
 果とくふ人あるべしとてり門徒これをささりー

^主かきくエロソルマより耶穌神殿よりて賣買せりし
 のと神殿よりおいづしとめて兌錢者の案^い鴿^いと
 るもの椅子とたし^共且^共いれても器をもつて神殿
 としりるとゆき^まま^まとて^まま^まふりひひ
 が家ハ萬國人の祈禱の家となづくべしとち^まされ

一ふあしぎやちうとを汝ら^{びんち}これと盜賊^{とうぞく}の巢窟^{さうくつ}とな
 せり大士子^{たいしし}祭司^{さいし}の長^{ちやう}られとてつゝして耶穌と
 ちろやとづらやとくられまふとやれハ人^{ひと}ぐみか
 耶穌のそしよおちろのそしよとていふよれらと
 おそるればなり^た日^ひ暮^{くれ}て耶穌城^{ぎやう}下^かといであひり^キま
 翌朝^{あした}かましく通^{とほり}らるとき無花果^{むからい}の根^ねよりいひとみ
 三^ニペテロ^{ペテロ}いひて耶穌よのひのうらビみよ^三詛^{のろひ}
 ともろの無花果^{むからい}なり^三耶穌よとてましくにひ
 るん神^{かみ}と信^{しん}ぜよ^三まことたつ道^{みち}汝ら^{びんち}ふつげん^三讒^{ざん}ある

そのころうしづかやもして我ら一々そのころのころのころ
 かなづと信じてその山よりうらひのころのころのころ
 ころかなづと一言ゆゑに我らふりげんぬよそ祈禱して
 汝らが福ぶとこのころののこれとくくと信じてバカやうと
 これを得べしと云ふ汝らつとも立て祈禱せらるること
 一人は對し惡とあるかふれとゆゑこれ天よゆゑ
 汝らの父もまゐり汝らのあやまちのころのころのころ
 ころ汝らのころのころバカ天よゆゑと汝らの父もまゐり汝ら
 のあやまちのころのころのころのころのころのころのころ

を信んぜぬやといふ人ニのつて人ハよりといふが如ク民トを
 おそるつゝあとかれば民ミみか引キ引キと實ニは預ヨ言ク者トよて
 ありしと實ニはゆゑなりニきしる耶穌トよるゝてあレど
 とのり耶穌トふてつひひらハつてはまニなるもの權ニ
 威イとつてそのしとたニと汝レらふつひさるなる也

第十二章

耶穌トとつてつてつてつたよるゝりとつてつたある人ト
 葡萄園トとつくりまニまニどめざつて穴ヲとやりて酒榨ト
 一塔トとつて農夫トよかして旅立セり期トよおふんで

農夫より葡萄をひの果實とてひをんてあた
僕と農夫のよりつとてひをんて農夫よこれと
とてひをんてひをんてひをんてひをんてひをん
僕とよつとてひをんて農夫よつとて石とて
ちつて首よつとてひをんてひをんてひをんてひをん
のよつとてひをんてひをんてひをんてひをんてひをん
くつとてひをんてひをんてひをんてひをんてひをん
ひをんてひをんてひをんてひをんてひをんてひをん
たつとてひをんてひをんてひをんてひをんてひをん

このいふことをきいて、あつて耶穌とていふ人とやつて
いふ人もいふぐとあつて、耶穌とていふてゆひり、耶穌と
言謬せん、またパリサイの人とヘロデのとも、いふ數人
つゝとされて、由耶穌よといふいひひり、師やといふ
汝なんぢいふことなるものなり、たれもかゝるいふとをたれ
いふふとやれば、人の顔色かほとていふて、まゝとて神の
をらと教しよるなり、貢稅きんぜいとカイサルよといふむるは、いふ
ち、いふいふなり、十五いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
耶穌その實まことなり、いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

とろべしと^キして七人の兄弟ありー長子妻ととり
てあとなくして死^ニ第^二ののこれを娶^ウてやこあこ
びくして死^ニ第^三もやこあせり七人もあふあつて
あとなくして死^ニ第^四もやこあせり七人もあふあつて
あとなくして死^ニ第^五もやこあせり七人もあふあつて
あとなくして死^ニ第^六もやこあせり七人もあふあつて
あとなくして死^ニ第^七もやこあせり七人もあふあつて
あとなくして死^ニ第^八もやこあせり七人もあふあつて
あとなくして死^ニ第^九もやこあせり七人もあふあつて
あとなくして死^ニ第^十もやこあせり七人もあふあつて
あとなくして死^ニ第^{十一}もやこあせり七人もあふあつて
あとなくして死^ニ第^{十二}もやこあせり七人もあふあつて

が理會りかいてゝゝるをそそねよひひびる汝神なんぢがみの國くにより遠とほ
 くゞこの後のちれもあて耶穌イエスよとよみのあゝとま耶
 穌イエス神かみ殿やよとゆるとをこゝていひひびるハキリントハダビテの
 子こなりと士子ぐしやのいハハるぞやまのちとなれハダビテみづ
 く聖靈せいれいよ感かんトていひひびる主まが主まよあたるの敵たてを
 御足みそと登のぼとなせやぞハハるが右みぎよ坐ませりといつうまそとダビテ
 づづと道をまことなるゆゑなればいつづてその子こなりん
 やおろの人のぐれ悦よろこば耶穌イエスよとよと耶穌イエスとゆるう
 りふとよひひびるついで長ながき衣服いふくしてある

市上いちじよおつその問安もんあん元會堂げんかいどうの高坐こうざ庭間ちまひの上坐じやうざと好この
甲 救女婦きうにょふの家いへと押領おしりやう一いつつくりて長ながく祈士子いのぐしこの氣き
 とつりよられらるゝともおやひなるつとらうと一いつ耶穌イエス
 寶錢庫ほうせんこよむろて堅かたせし入いぐ錢ぜいととらにたげらるゝを
 とらふおろくともあるのいにおろくなげしつり三ひらりの貪あま
 とやあんとかともつて鏝びんふつとたげらるゝつりこれハ四
 文錢もんぜんひつりよあつるなり三耶穌イエスの門徒かどとよびてま
 らふひひらひはさるゝになんぢ汝なんぢらふつげんこのまらるゝ
 やあんとんを庫くらよたげらるゝ人ひとぐらひハおろく

なげきしなり 留いふもたれば 憂ひみぶその羨餘
 とらふらなげけれらちるふのんぬふにその
 身代とつてせらるるなり

第十三章

耶穌神殿より びとびとバ門徒のひとりも ぶひひけるハ師や
 みまへつるなる石ありしつたる家屋ぞ 耶穌をてりひ
 けえ汝のおりひたる家と ころる石のうへ 顔なる石
 くのこころより 耶穌橄欖山よて 神殿よむつて坐

されバペテロヤコブヨハン子アンデレー等外の人よりなれ
 てとひひる。何時このことあるややとこゝろとみふまはた
 出来んとするもこのいつなる兆あるやされらよつげし
 一耶穌こゝてまゝにひるめける人々感ん
 ずとつゝめよつふとなまじおろくの人の名と
 めつてささるるれハキリトなりとひるやろくの人の感
 せ一汝ら軍戦まゝいゝの風聲とささるるや
 ぞして道これのなまじあるやろくなれども末期の
 ぶらゝぞハそれ民起つて民と攻め國ハ國とせむ

べーもくし所くくよ地震ありまきし飢饉騷亂ありまき
 けきばかりこれら艱難のくまめたり汝らみづく
 つしめよつみとなれば汝ら評定所よつしよれまき
 會堂よひらうれまきつがこまにうて奉行と王
 の前よつしつ小證據となまきめふひこまらざし
 福音ハきこつて萬民よひ廣めねむなまらうり
 土人汝らと曳てつしこまき前つてなふとつしつやを
 案トまき考ふるなれどそのまきに汝らふあふれ
 一とまのまきつしつあとなればつしよのハ汝らに

あらどすかゝるに聖靈ホウレイなりしト兄弟ケイテイハ兄弟ケイテイと死シしつと
 一父イチフ人子ニゴやむの子コどもハさうふその父母フボと死シせしむ
トまじし汝ニカラらりしが名ナよりそまじし人の人ヒトぐハ惡アクかりし
 ちこれどもおんりやでちのぶめのハこれこそとくする
 べしト古預言者コヨゲンシャダニエルのいふれしとちの墟チカラといふ
 ちむむむいものこれ立タツべしとちとちふしとちとち
 ちむむのよく考カガムへば「そのとちとち」ユダヤとある人ヒトぐハ山ヤマハ
 ちむむ十五ち屋ヤのりハあるものハ家イとくするとちとちとち
 ち物モノととちとちふその家イとくするとちとち夫田タとちとち

のもとその衣服とんぬあふかつるごとくぞ七そのとき
 孕^みとんたも乳^ちとのまをるとんぬあひつぎひなるうた六
 汝^{なんぢ}らの逃^にえん冬^{ふゆ}よあへるやうよひのれ九そのときこの
 災^{わざ}難^{がた}ハ神^{かみ}のつくりしむひ一開^{ひら}闢^{くわ}のそとめより今^{いま}よ
 ころまでこのときハあへてまじ今^{いま}の後^{のち}よあへて
 手^て主^{ぬし}その日^ひと減^{げん}せられた一人^{ひとり}もまじらざるものなりされ
 どもえらびたむひ一ころのえらやれ一のいあふ
 その日^ひと減^{げん}ドたまふなりニそのときまじ一人^{ひとり}汝^{なんぢ}らあふ
 キリシトうにありあふハまじかこふありといふも

信ぢるならん^三いふと仰れバ偽^{よせ}キリシトす^三偽^{よげん}預言者
おろりて仕^し遂^{たぎ}らるるなりバな^らまれ^しのさよ^ももど
く^く通^とんとて休^{やす}徴^しと奇^き跡^{せき}とみ^みぎ^ぎべ^べ^三汝^{なんぢ}らつ^つしめ
よ^よく^く通^とあ^あか^かが^がめ^め汝^{なんぢ}らふ^ふこ^こも^もぐ^ぐく^くつ^つぐ^ぐら^らり^り言^{こと}とそ^その
日^ひよ^よお^おひ^ひそ^その災^{さい}難^{なん}の^のち^ち日^ひハ^ハ晦^く冥^くなり^り月^{つき}ハ^ハその^のひ^ひり
と^とて^てま^まご^ごど^ど天^{てん}の^の星^{せい}ハ^ハ隕^{いん}墮^た天^{てん}よ^よあ^ある^る勢^{いきおい}ハ^ハ震^{しん}動^{どう}せ^せら^らる
べ^べー^ー天^{てん}の^のと^とこ^こ人^{ひと}ぐ^ぐ人^{ひと}の^の子^こお^おひ^ひなる^る權^{けん}威^いと^と光^{こう}明^{めい}と
あ^あつ^つて^て雲^{くも}の^のう^うら^らふ^ふと^とら^らる^ると^とら^らる^るべ^べー^ーま^まか^かこ^この^のと^とこ^こよ
人^{ひと}子^この^の使^{つかい}と^とつ^つり^りて^て地^ちの^の端^{はた}より^り天^{てん}の^の端^{はた}まで^で四^よ方^{ほう}より^りその

ちりやれーのとあつびー元無花果樹よりこゝとよ
 なぐその枝とでふ柔よとて葉と芽とせば夏のちりこ
 とちりやり元かみのこゝと汝らこゝのこゝのたのむべ
 そのとこちりく門戸よいふとちりべー辛
 汝らふつげんこの代過ごるうらよこゝのこゝとわく
 なぐー天地く盡べーちりー口がこゝとどハつてさなる
 ちりーそのとこハいれも天よ使と子もささちりぞん
 父のこちり汝らそのとこささしよあまのちりなる
 よつしみ氣とつちりめべーこれ人の子ハ遠く旅

ある人のごとくその家とくあるは留守居とその家僕と
ある人ごとくその事業とつづり門番と目ととせよ
と命どればなりと申えよ汝らも目ととせよといふあり
なれば家のありかつととせよあるは夕ありは夜半あり
多ひは鶏鳴ありあるは平且ととせよととせよととせよと
不意ととせよとつて汝らのねむさるふあるんこれ汝ら
よとせよととせよととせよととせよととせよととせよと

第十四章

さてこれより二日のちら逾越し除酵餅のせつとかりて

祭司のどきと學者どもといふなる詭計とありて、
 耶穌とていへてこゝろさんとつゝのりニあつて、
 けの民の亂のおうんごきとておちるゆゑに祭のあひ
 ごとくつゝぞニ耶穌ベタニヤよおつて癩病なるシモン
 の家よありて膳よつくとまある女蠟石の盒の價た
 りさナルトのあづともらひたりそのとと破して
 あづと耶穌の首よのひりありありとこころのう
 らよつりととまんでいひひりありありのあづとつひやと
 となよゆゑぞや五、これとつゝ金子三百ありと

えてやぶ—のよるどこまらぶ—この女^{とんな}のひとが
めりり^六耶穌のひひ久^{とん}女^{とんな}がまふな何^{なん}ぞこれとやま
やうちうらこまをくれよな—りまが—この
つねふ汝^{なんぢ}らとよに汝^{なんぢ}らこらよまをせしむら
せまき—くれつねよ汝^{なんぢ}らとらにあ—どこの女^{とんな}や
ぶひな—りこれと華^{はな}るまよあ—の我^{われ}
身^みよあぶ—とけ—なり^九くれま—に汝^{なんぢ}らよつげん
天^{あめ}下^{した}づ—まも福音^{ふくいん}のひろあら—この女^{とんな}
のたせ—もま—のかい—のまら—

2 師のころハ口也門徒とよふききさうと食せんと坐
 せとハいづくふあうといふがま 道汝らふきでよそめく
 陳設する樓のやうなる坐をききとまきさうとさうふ
 ぶがうのいふとさうとせよ其門徒ゆさて城下より
 1 耶穌のころハ口也門徒とよふききさうと
 かもりも 日暮て耶穌十二とらんにさうり入りし
 坐して食せるとさうと耶穌のいひけるはきをまたはれ汝
 らふびんはとさうと食せる汝らのひきりしれとこ
 とさうと先 汝らさうとさうとて一人づ耶穌は我

の人^{ひと}のあふなむととろの新^{しん}約^{やく}の^くが血^ちなり^まき
 とふ^とれ汝^{なんぢ}らふつ^ん今^{いま}より^のら^はま^はこ^れと^あつ^た
 神^{かみ}の國^{くに}よお^そて^認日^ひま^まや^いこの^葡萄^{ぶどう}より^つり
 ものとの^もら^べと^まを^ま歌^{うた}と^うて^て橄^{かん}攬^{らん}山^{さん}
 よ^ゆげ^りも^モ耶^や穌^そ門^{もん}徒^てよ^よひ^ひり^る今^{いま}夜^や汝^{なんぢ}ら^らま^まら^ら
 と^よふ^ふ狼^{ろう}狽^{たい}ら^らべ^べと^とま^まれ^れ牧^{ぼく}者^{しゃ}と^と撃^うぐ^ぐ羊^{やう}散^{さん}と^と
 べ^べと^とま^まれ^れな^なり^りえ^えと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れ
 の^のら^ら汝^{なんぢ}ら^らふ^ふと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れ
 よ^よひ^ひり^るた^たと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れと^とま^まれ^れ

ざうらうみ人ぐ汝よつてそそ證據ハいふぞやニ耶穌
 默然もくねんとしてばよもこつてびらびらニ祭司のときもいれ
 よとそつひびらハ汝ハキリシトきふくら恭敬こうまつづもの子
 かりうニ耶穌ニひびらとらと汝らも人の子あつてゐるや
 左の右みぎよ坐ま一ニ天の雲のうらよとつるぞとるべニ祭
 司のときその衣ころもと裂ひてつひびらハそれらなんぞニ證據
 人ひと用もちあるやハ汝らのその惡口あくぐちをなつてつひらば
 つまや人ぐころぞつて耶穌と死罪しづいよとおかたふべとめと
 ざうらうり六五 あまのハうも不啻ふたぎ一ニその面おもてと蓋おほひ

通しとて預言せしむるに僕手のひらも
つて通しを批し、穴ペテロ下庭に居時祭司のとき
下婢のとりとるに穴ペテロの火よあつて見よと
つて通しをひひりた汝もまたナザレの耶穌とてあ
あり穴ペテロ拒んでひひりたれはあつてやま
汝のひらもあつて庭口よりげれば鶏ひき
し、充ち下婢れとてあつたものよひひ
る穴ペテロのひらもあつたものよひひ
これとてあつたものよひひ

ペテロよひびりえ汝をよこにふどもづのひかりなり
 のふとやれバ汝ハガリラヤの人なりす國をまゐりもこ
 ども合アヒテペテロヨレ神のたりとをうくるも汝ら
 いやそろの人ハちくるむりとりつていらん
 ビ鶏ハまじしバペテロ耶穌の鶏ふてびんぐまよ
 三次我ともくぞとくづしとひんぐとぞおひんぐ
 ーヤこれをおひかして泣きみあ

第十五章

平且つらよ祭司のとも長老學者よべての評議

人とともにくわりて耶穌と縛ひをいづれてピラトよ
 つらなりニピラトをよこしよひひる汝ハユダヤ人の
 王なるをよこしよひひるありニ祭司のよこし
 と耶穌とくわりひきこはるはこころよピラト
 まし耶穌よそせいひひるなるもこころよ
 汝よつていふほどの證據をいひや五耶穌
 なるもこころよざりけむバピラト奇こころ六よそこの
 まつりよ民のわざよそろの囚人とひきり
 よゆをよこし例なりセバラツバよむらんセ

第十五章

ともぐつとごもにさく入おれぬものあり。これ
 はそのむねんのもも人（ハヒ）を殺せぬのむねりハ人ぐ大
 聲（コエ）よんで常例（ツツモ）のごとくせんとなぐり九ピラトれ
 らよこしていひひらつユダヤ人の王（キニ）とゆをこと
 とろつせり。これピラト祭司（サウジ）のとももの娼妓（オウキ）よよ
 つて耶穌とこそせしとちまバひり土祭司（サウジ）の長
 寧（サウジ）バラツとゆをんと民よせめり。土ピラト又
 こしてさく入いりひらつユダヤ（ユダヤ）のユダヤ
 人の王（キニ）とゆをんと民よせめり。土ピラト又

やまゝくさしむらりてこれを十字架ゴッドよひて
^{十四}ピラトピラトよひてよひて何の悪事アクトとやせしや
まゝくさしむらりてこれを十字架ゴッドよひて
^{十五}ピラトピラト民とせんぞくせんとかつてバラツバと
一 耶穌とむらりて十字架ゴッドよひてあはれ
せり十六 歩率メーどもプライトリウムとむらりて
耶穌とついで組中グループとよびあつめ紫パープルの袍ローブと着
せとぎの木ツギノキとて冠物クラウンとあはれせとせと安アムぎ
ユダヤ人ユダヤ人の王キングとあはれとせとせとせと

よつがーのちその衣服とあのかみよととんとんと鬘と
なしてよつがーのち五辰の半時よつがー耶穌と十字架
よつがー^{ニ六}その罪状標^ニユダヤ人の王とよつがー
^モよつがーのめと人^ニとひつりんその右^ニよつがーひつりんその左
よ耶穌とよつがー十字架よつがー^ニこれ聖書よつがー
ハ罪犯人^トとよつがーふかぞくられてあり^ニとつがーふかぞく
^元往來^ノのものどもよつがーとのちりおのれの首とあり
てよつがーハ噫^ハ神殿とよつがーちて三日よつがーこれとよつがー
あつがー^ニとよつがーとよつがーて十字架と下^ニよつがー

一のよみがぐーやよもよなぐー朝弄してたぐひよ
 うりかたふらふらゆきおほくはなむしりしとて
 くまことあひとぞぞキリシトイスラエルの王よ
 きて信ぜるやうよし十字架よりとりよまじい
 十字架よつひられしものぞもこととのりわう午
 の刺より采のなごよつるまやその土地を暗く
 なりぬ言ひつどのなごころ耶穌大聲よよぞり
 てソひびスエロイエロイラマサバクタニこれと譯を
 ばバマが神マが神なんぞこととてくまじやと

びり^五 ころころにころころあふ^六 きていひけるハ
 ころころとよなり^六 ひりころころて酸と海緋
 ころころ^七 葺よつてよのませていひけるあは
 りれら^八 子リヤのころころとちりあつちりあつちり
 ころころと^九 耶穌おふころころとて息ころころ
 神殿の幔帷^{一〇} ころころ下^{一〇} までころころ裂^{一〇} ぬ^九 耶穌
 ころころとて隊長^{一一} そのころころとて息
 ころころとていひける^{一二} ころころとていひけるハ神の子
 ころころとていひける^{一三} ころころとていひけるハ神の子
 ころころとていひける^{一四} ころころとていひけるハ神の子

マグダラのマリヤは一年のヤコブとヨセの母なる
 マリヤはサラメありて、^四これハ耶穌のガリラヤあり
 といふにちびつて、^一のなまはつたに
 といふエロソルマのガリヤありて、^二祭の
 設備も、日よて、^三安息日の前日なるゆゑ、^四
^三日くく、^五アリマタヤのヨセフと、^六評議人、^七
 神の國とのぞむものよて、^八あて、^九ピラト、^{一〇}ゆゑ、^{一一}耶穌
 の屍と、^{一二}ピラト、^{一三}耶穌の、^{一四}死、^{一五}と、^{一六}あ、^{一七}
 隊長と、^{一八}んで、^{一九}死、^{二〇}と、^{二一}て、

四五

これと隊長より取りてあるとねとヨセフよあるより
布と買てくるねととりあるしてこれを布よつみ岩を
るり墓所よあるとるの門よ石をすろとるおひり
マクダラのマリヤすいヨセの母なるマリヤそのおひり
とる

第十六章

安息日よびてマクダラのマリヤとヤコブの母なるマリヤと
カメ薫めのとひ耶穌のあつねと塗らんとてある
一七日のふめの日いとやく日の出ざり墓よ

かこめて通しとるべしとてびよろろとて出て墓より
走あつてあられりきりしものいふなりこれおそれ
ゆゑなり九 耶穌一七日の始の日未明よよみどりて曾て七の惡
鬼とおひいざせーマダラのマリヤよとどめてあられり十 マリヤ
ゆゑて耶穌とこゝにありしもの哭哀あつるものいかに
とつびより十一 耶穌の生てこのとんたふみえー
十二 信せどはそのうち門徒のさより田舎よゆいで
あつてとて耶穌とこゝにありし容よとて通しにあられり
十三 ともゆゑとてあつたのでーとつびねとまじりしもの

信ぜざりし者又その後十一の門徒の食するところよあはれされ
 らの信ぜざりしその心の鈍をいひめりこれれらが耶穌のよみ
 ぐり後れをさるるののと信せぬゆゑなり 耶穌もつたひ
 けるハ世界中とめりて福音と人ごにのよみ信て洗禮とする
 のハ救れ信ぜざらものハ罪せらるる左のちハ信ぜらものハさるる
 べしとるち我名よりて惡鬼とひびく異なりける方言といひ又蛇と
 くと毒とのじも害なく病のよ手とつればさるらひぬとあるふ
 主彼らにさるり後天よりけりて神の右に坐せり 門徒普く福音とのべり
 主彼らハ力とある件ノ奇跡もつて道の徴となせり 亞孟

新約聖書馬可伝（覆刻）

一八七二年秋

初版発行

二〇一二年六月八日

覆刻発行

非売品

発行所

学校法人 明治学院

東京都港区白金台一―二―三七

〒108―8636

印刷

株式会社 白峰社